

ご挨拶

八千代花と緑の応援団
団長 東原 光陽



こんにちは。日頃より八千代花と緑の応援団に対し、多大なるご支援、ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。

今春、八千代緑が丘駅北口ロータリーバラ園のバラたちが、最高に綺麗な花をつけてくれました。2018年10月、「八千代緑が丘駅北口ロータリーを日本一の駅前バラ園に」、「京成バラ園に続く遊歩道を日本一のバラ街道に」を合言葉に、緑が丘の皆様主導の活動がスタートし、暑い日、寒い日を問わずバラを慈しみ、お世話をしてくださった賜物だと思えます。また、皆様の熱意は確実に周囲に伝わり、エドワーズ株式会社様、京成バラ園芸株式会社様、コメリ緑育成財団様、緑が丘自治連合会様、八千代市様、八千代市地域振興財団様、八千代まちづくり緑が丘基金様（以して、応援団の事をよく知っていただく事上、50音順）と多くのご支援を賜わることがその第一歩となると考えます。この会報ようになりました。本当にありがとうございます。

先日、書面にて開催させていただいた総会の資料として活動理念に関する資料を改めてお配りさせていただきました。そこには、

- (1)活動を通じ、ご参加いただく皆様が新たな生き甲斐を見出し、幅広い年代の方との交流の中で地域の絆が紡がれ、「八千代に住んでいることが誇りに思える活動にする」
- (2)親から子へ、そして孫へ受け継がれる活動にする
- (3)バラの名所、名物をつくり、八千代を訪問する人を増やし、経済を活性化する



、以上の3項目が記載されています。今後もこの活動理念を皆様と共有させていただきながら、心を一つに更なる成長を目指して参りたいと存じます。

その為に重要になるのは、ご参加くださる皆様、ご支援して下さる皆様に「応援団に参加して良かった」、「支援して良かった」と感じていただくことだと思えます。それは応援団の活動をよく知っていただく事上、50音順）と多くのご支援を賜わることがその第一歩となると考えます。この会報では応援団の活動報告、今後の予定、メンバー紹介の他、京成バラ園の大川原さんによるバラのコラムも予定しています。

この会報の発行が、応援団内のコミュニケーションの活発化と応援団に関心を持つ方の増加に寄与すると共に、応援団が親子の思い出を紡ぐ場となることを祈念し、私の挨拶と代えさせていただきます。



今後の作業予定

【7/17（土）】草刈り、咲き殻つみ、
駅南北プランターにバラ4本植樹

【8/21（土）】草刈り、咲き殻つみ

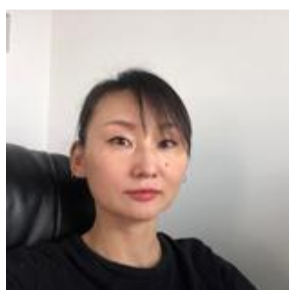
【9月4日（土）特別活動日】
北口ロータリーにて剪定

【9/18（土）】草刈り、追肥、消毒、
咲き殻つみ

※前日午後5時の天気予報にて当日午前9時の降水確率が50%以上の時は延期となります。



応援団へようこそ！ 団員の皆様をご紹介します



渡邊瑞恵さん

コロナ禍と紫外線のWガードでめっきり素顔でご挨拶できる機会が減った今日この頃、八千代市で生活して早8年となりました。落ち着いた街ですが、その一方で地元を盛り上げたいと地域活性を目標に活動している八千代っ子も多く居られ、そんな方々に触発され自分も！と思っていた所での八千代花と緑の応援団との出会いです。

普段はデスクワークですので土に触れての活動はとても良いリフレッシュとなっています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



白井重吉さん

「薔薇」

バラはじゃじゃ馬のごとき、貴婦人のような花で、美しく貴賓があり、油断すると刺されてしまう。私の好きな花は「聖火」です。貴賓高く美しい半剣弁高芯咲の美は他にないよう美しい。緑が丘駅北口ロータリーにバラが再生していただきました。この活動に私を参加させていただきました。活動が広く市内にアピールし、市内にバラを広めて「バラの都市八千代」になるように活動したいと思っています。



喜多村悦至さん

私は炭鉱の町、福岡県大牟田に生まれ、高校まで暮らしておりました。学位取得後、英国のDundee(スコットランド)にあるDundee大学生命科学科で教員として14年程過ごし、2017年に熊本大学で職を得たため帰国しました。その後、日本の基礎研究を盛り上げるため、技術コンサルタント職を得て2018年6月に八千代市へ越してまいりました。八千代市民3年生ではありますが、第三の故郷としてこの市を盛り上げる活動に参加できればと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

バラの街づくりに向けて前進あるのみ
八千代花と緑の応援団
八千代市議会議員 花島 美記

まずは、速報です。
6月に行われた令和3年第2回定例会（議会）において、服部友則八千代市長に「バラまちづくり条例」の制定について質したところ、「やらないと言う選択肢はない」とのご答弁をいただきましたことご報告申し上げます。

「バラまちづくり条例」というのは、「バラのまち」を謳った先進市であり、2025年に国際バラ会議が開催される広島県福山市で制定されており、この条例が市民のバラに対する想いや意識の向上に寄与したと言われている理念条例です。わたしは、「バラのまちづくり」は行政と市民との協働でなければ

成しえないと思っておりますので、「花と緑の応援団」のみなさんの日頃の活動や熱い想いが服部市長に伝わったに違いないと確信しております。

さて、市の花が「バラ」に決まったのは、平成9年、八千代市の市制施行30周年を機に行った市民アンケートによるものでした。ユリやコスモス、ひまわりなども挙げられておりましたが、ダントツで「バラ」でした。そして、平成13年に「花と緑の応援団」の活動が開始されますが、時を同じくして八千代市では、「100万本のバラ植栽構想」が立ち上がりました。構想を事業へと進めるべく「バラ植栽構想策定委員会」が行政と市民有志で構成され事業報告書が提出されましたが、全体の調整機関として事業運営に関わる「バラのまちづくり委員会」が、当時、諸般の事情

により設立に至らず、事業が進みませんでした。

それから20年の時を経て、昨年11月、市の部長級を構成員とする横断的な推進組織「バラのまちづくり庁内委員会」が設置されました。一度は立ち枯れてしまった「バラのまちづくり」ですが、再び花開くと行政も本格的に動き出したのです。

来年は、八千代市制施行55周年です。バラのまちづくりに向けて「GO！GO！」で参りましょう！



やっち

水撒きの重要性について

八千代花と緑の応援団
京成バラ園芸 大川原 清光



「お庭に植えたバラは水を撒かなくていいよ」「水を撒きすぎると根腐れを起こすよ」園芸業界では、この様に言っている方が沢山います。しかし、根腐れは、水のやり過ぎで起きる現象ではありません。水の不足で根の一部が乾燥死して腐る現象を言います。

「土の表面が乾いたら水を上げてください」という言葉がありますが、あくまでも「乾いたら」であって「乾ききったら」ではありません。春や秋の天気の良い日は、午前中に撒いた水は4～5時間で乾いてしまいます。バラ農家は、晴れた日は1日2～3回の水撒きを行います。これがお店になると1日1～2回となり、お仕事をお持ちの愛好家になると2～3日に1回の水撒きになってしまいます。水撒き回数が減ればその分、根が乾燥死します。植物には葉の分だけ根があるのですが、根が死ぬとその分、葉が黄色くなる傾向があります。水不足による1回の乾燥で1～2割の根が死に、その分、葉が黄色くなって壊死します。根が死んだ分だけ葉を枯らすことにより節水を行う

わけです。健康な葉であれば病気もおきにくいですが、弱った葉では、あつという間に病気だらけになってしまいます。

水不足がいかにか植物をダメにするか、お判りいただけましたでしょうか。個人的な事ですが我が家では、自動灌水装置を取り付け、春と秋は一日2回、夏3回、冬は2日おきに水撒きをしておりますが、根腐れするどころか、植えた植物がガンガンと育っております。当然、雨の日でも水撒きを行っておりますが植物が本当に良く育っており根腐れは全く起きません。



八千代花と緑の応援団
事務局長 濱野 俊輔



団員の皆さんが70名を超え、応援団としてまた応援団員の間での情報交流の場として年4回（春、夏、秋、冬）会報を発行することになりました。会報誌の名前を募集したところ多数の応募をいただき「
」とすることになりました。今後皆さまからの

寄稿をいただくなど内容を充実させてまいりますのでご協力をお願いいたします。

1. 活動報告（4～6月）
- (1) 駅北口ロータリーバラ園ライトアップ
4/23～6/13、春バラの満開時期を迎え、ローズフェスタ委員会と協働してライトアップを行いました。
- (2) バラ街道花壇整備
市により緑が丘5丁目のレンガ花壇の補修が行われ、6/9に土作りを行いました（7月以降植樹予定）。

